

[No. 1]

次の資料は、1973年に発表されたイヴァン・イリイチの著作『Tools for Conviviality』の翻訳（邦題『コンヴィヴィアリティのための道具』）の一部を抜粋したものである。この資料に示される「根元的独占」に該当すると考えられるプロダクトやサービスの具体例を挙げ、これらが利用者や社会に及ぼす影響をデザインにより改善するための方策について述べなさい。

資料

著作権未処理のため、公開できません。

著作権未処理のため、公開できません。

[No. 2]

次の図に表された急須の特徴を、その形や用いられている素材、使い方等に触れつつ説明するとともに、このプロダクトデザインが従来の急須にあるどのような課題の解決を目指したと考えられるか、さらに、この急須が人々の暮らしにどのような変化を与え得るかについて述べなさい。

著作権未処理のため、公開できません。

<寸法> 幅 98 × 奥行き 114 × 高さ 58.5 (mm) / 厚み 4~20 (mm)

<素材> 本体及び蓋 : 飽和ポリエステル樹脂 / 茶こし : ステンレス

<耐熱温度> 100°C

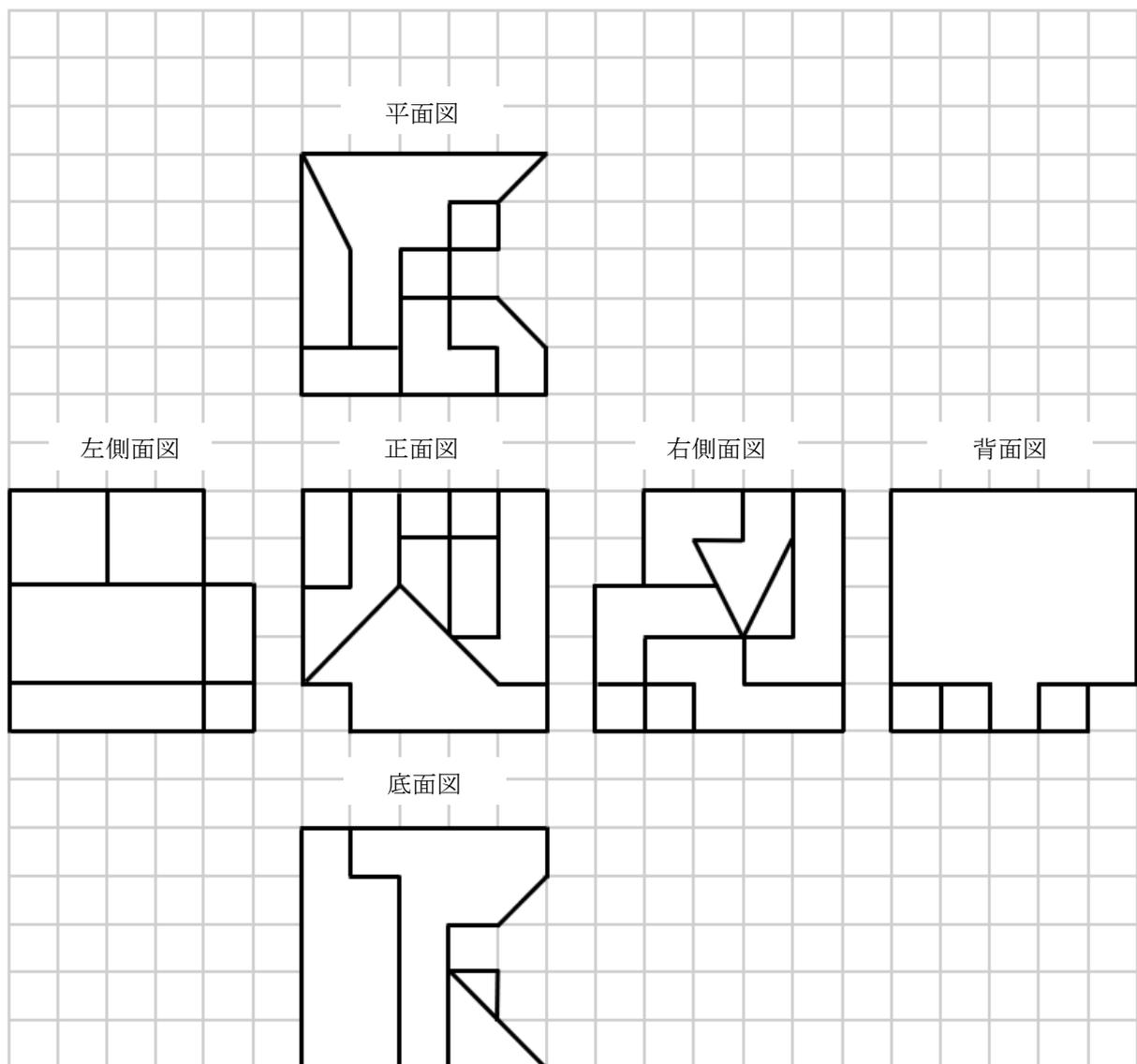
著作権未処理のため、
公開できません。

著作権未処理のため、
公開できません。

[No. 3]

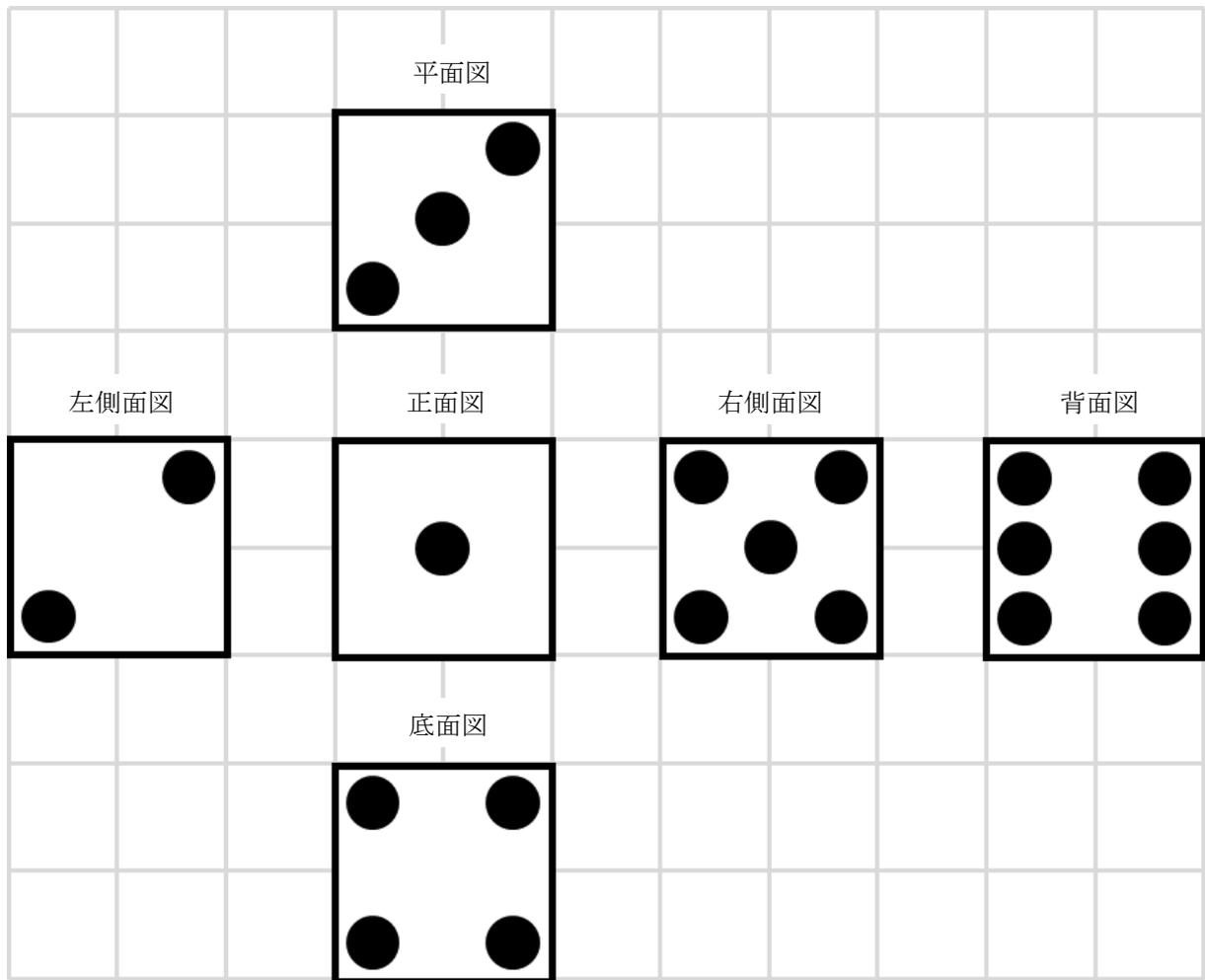
六面図が次のように表される立体の「正面、平面及び右側面を表す斜視図」を、(例)に倣い斜投影図法を用いて作成しなさい。

ただし、各図の実線は立体の稜線を表し、この立体には模様及び曲面はないものとする。

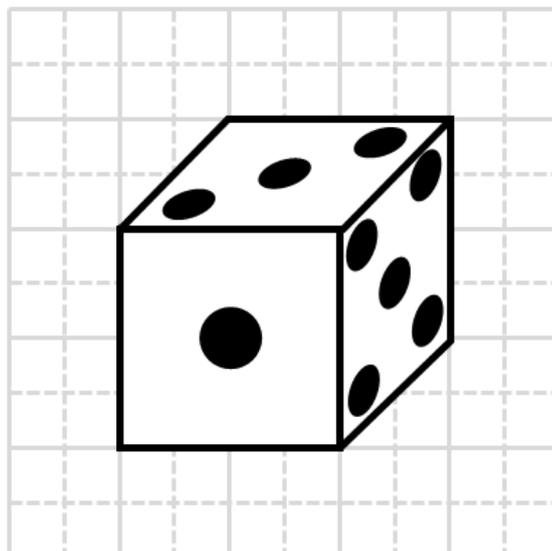


[No. 3]

(例)



「正面，平面及び右側面を表す斜視図」

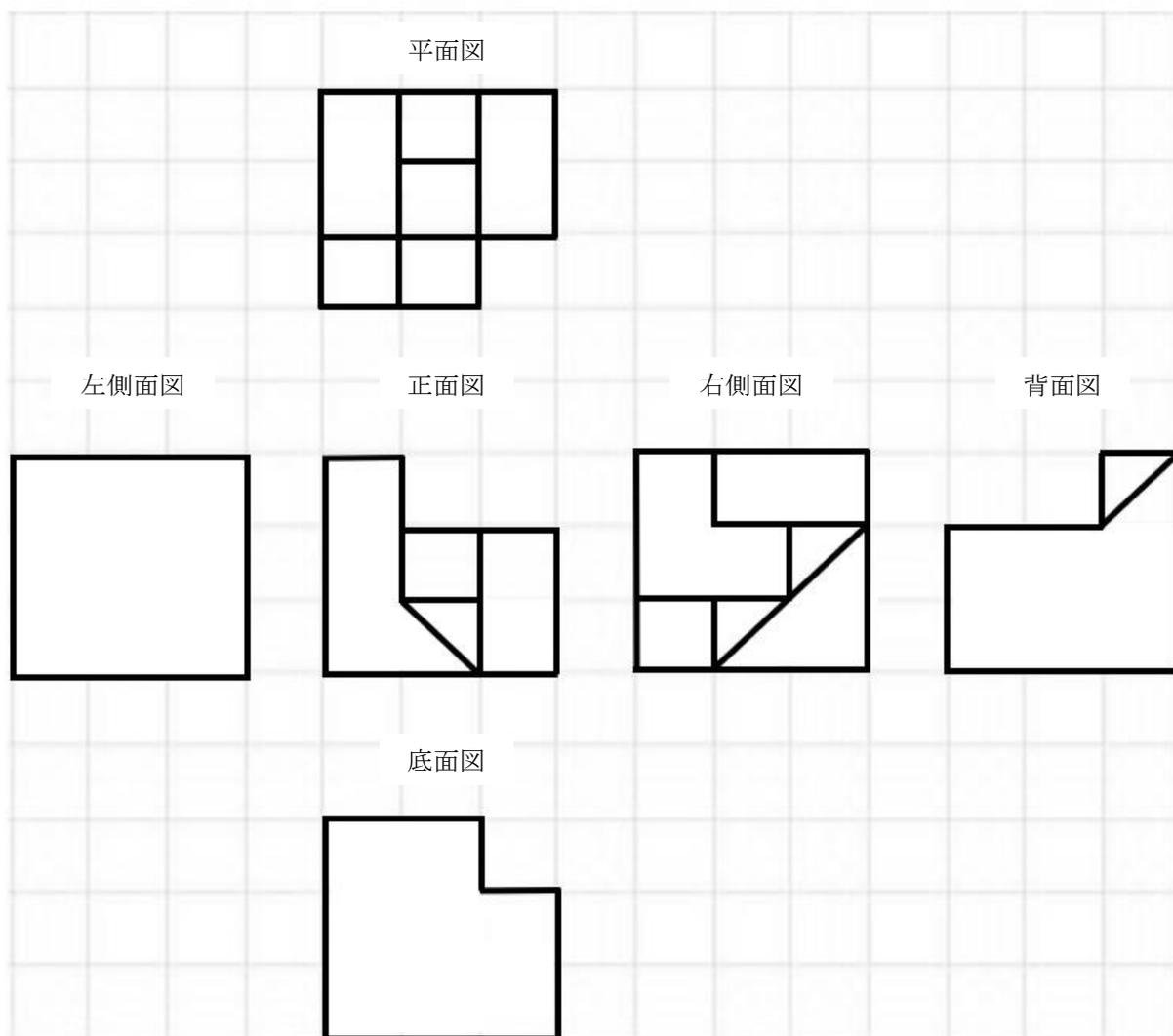


[No. 4]

六面図が次のように表される立体Aの凹凸と隙間なく組み合わせて立方体となる立体を立体Bとする。「立体Bの左側面，底面及び背面を表す斜視図」を，（例）に倣い等角投影図法を用いて作成しなさい。

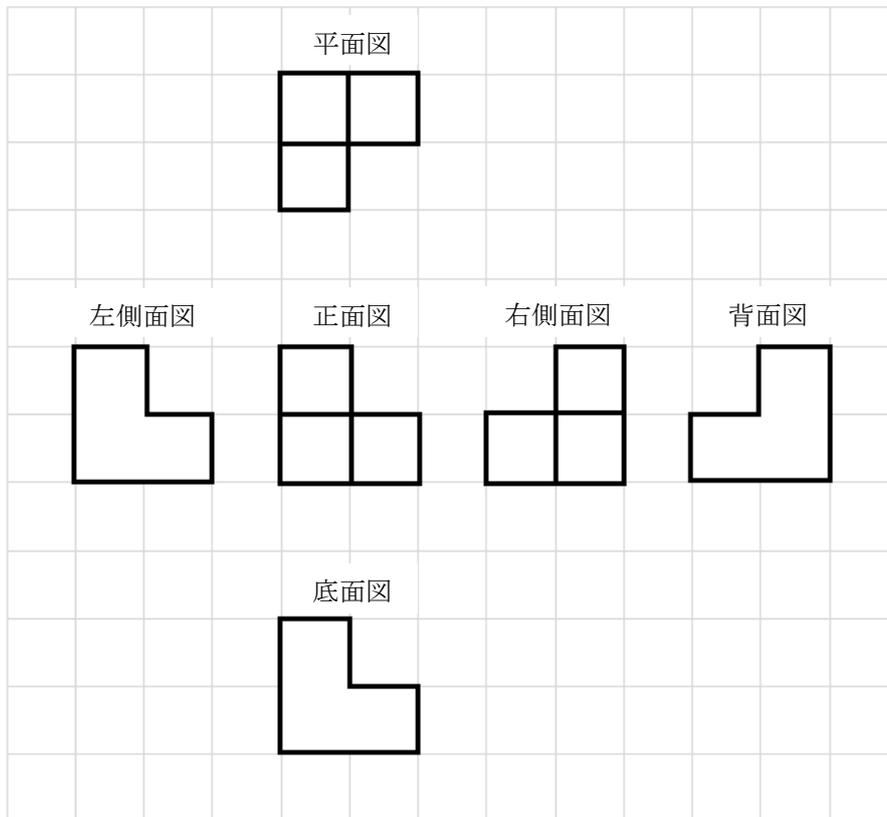
ただし，立体Bの左側面，底面及び背面は，それぞれ，立体Aと組み合わせたときに立体Aの左側面，底面及び背面と同じ向きの面とする。また，各図の実線は立体の稜線を表し，立体A及び立体Bには模様及び曲面はないものとする。

立体A

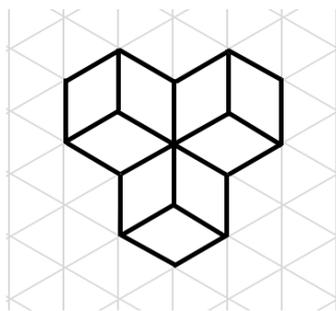


[No. 4]

(例) 立体ア



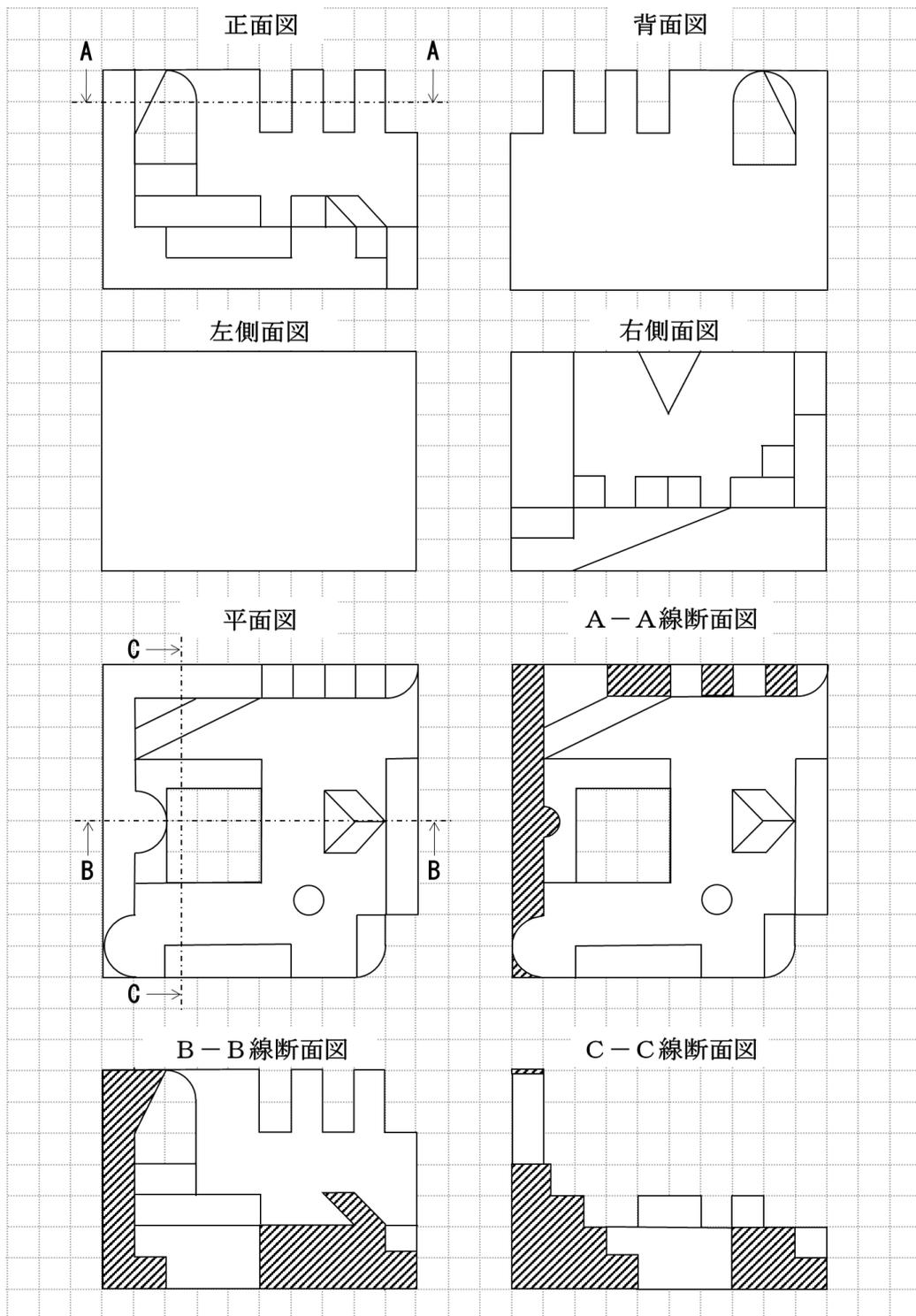
「立体アの凹凸と隙間なく組み合わせて立方体となる
立体イの左側面，底面及び背面を表す斜視図」



[No. 5]

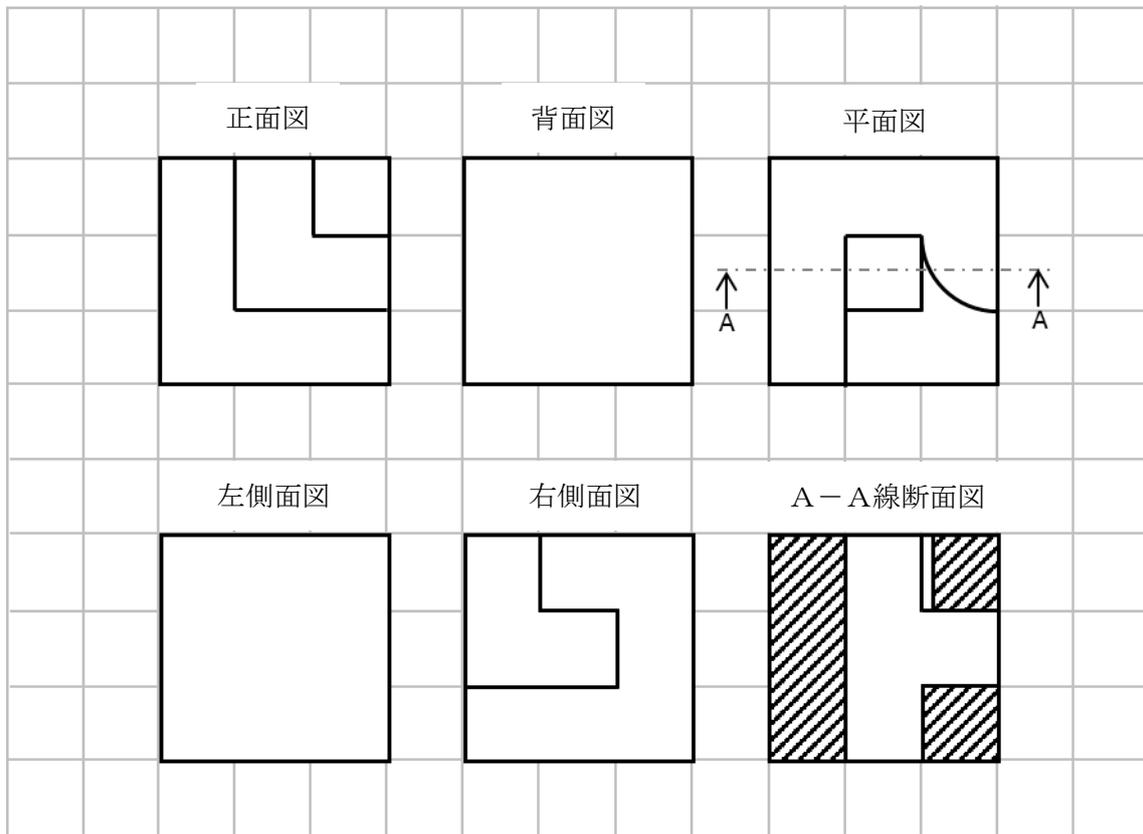
次の図面によって表される立体は、住宅の内装を模したものである。この立体の「正面、平面及び右側面を表す斜視図」を、(例)に倣い等角投影図法を用いて作成しなさい。

ただし、各図の実線は立体の稜線を表し、この立体には模様はないものとする。

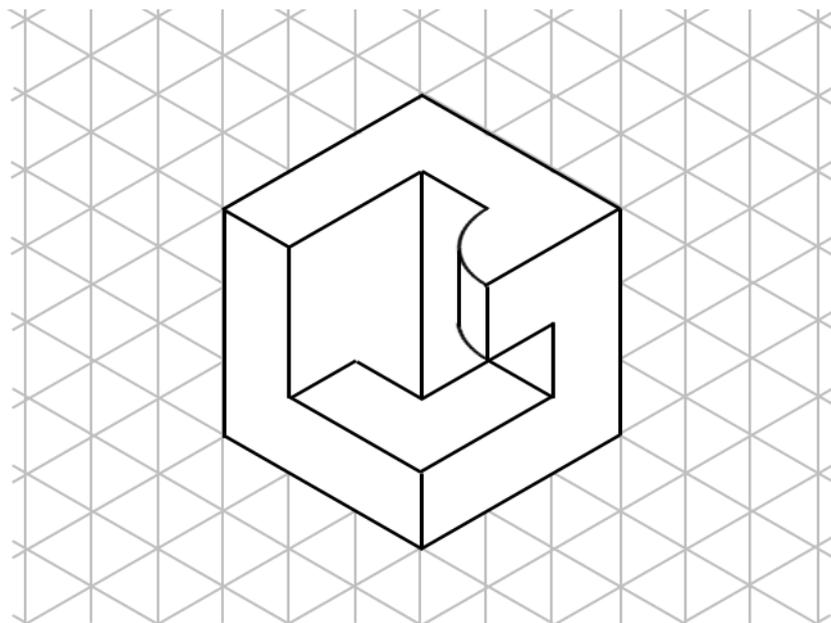


[No. 5]

(例)

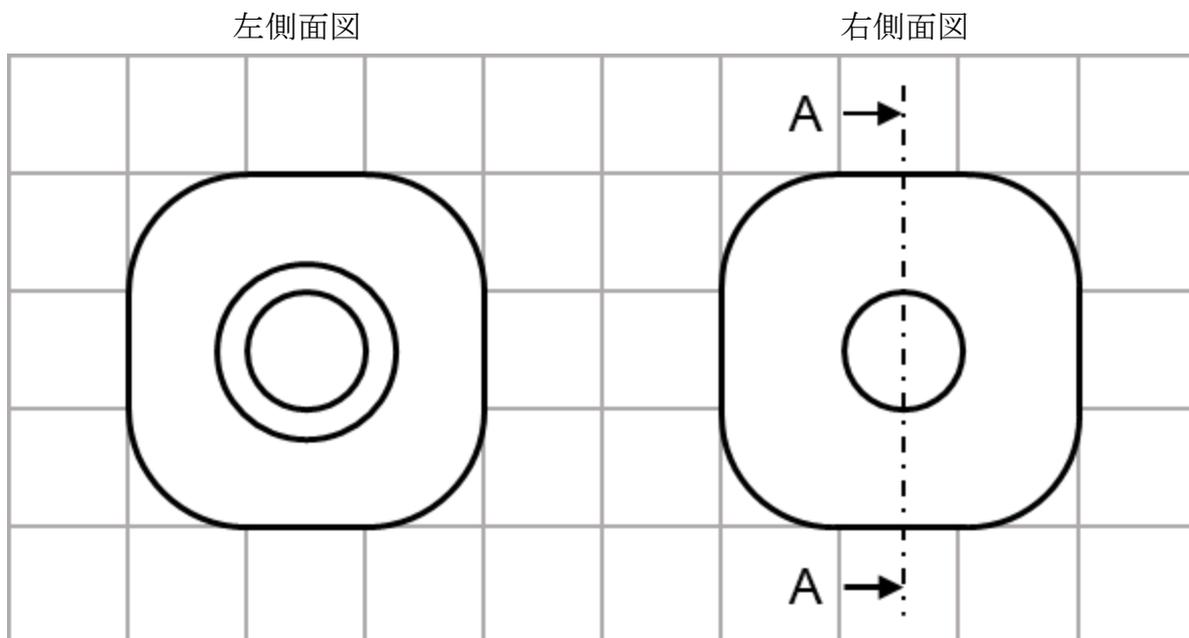


「正面，平面及び右側面を表す斜視図」



[No. 6]

左右の側面図が次のように表される2つの物品（ア），（イ）の立体形状を自由に想起し，それらの立体の「正面図」，「A－A線断面図」及び「斜視図」を，（例）に倣って作成しなさい。



(ア) テープ交換可能なテープカッター付き粘着テープホルダー

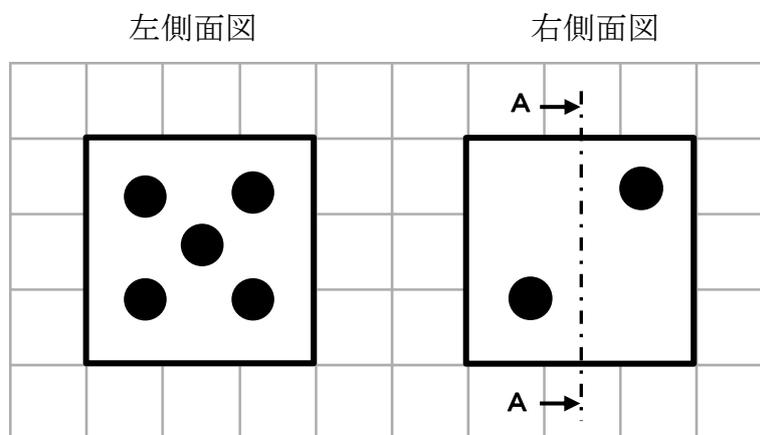
(イ) イレーザー付き筆記具

(解答に当たっての留意事項)

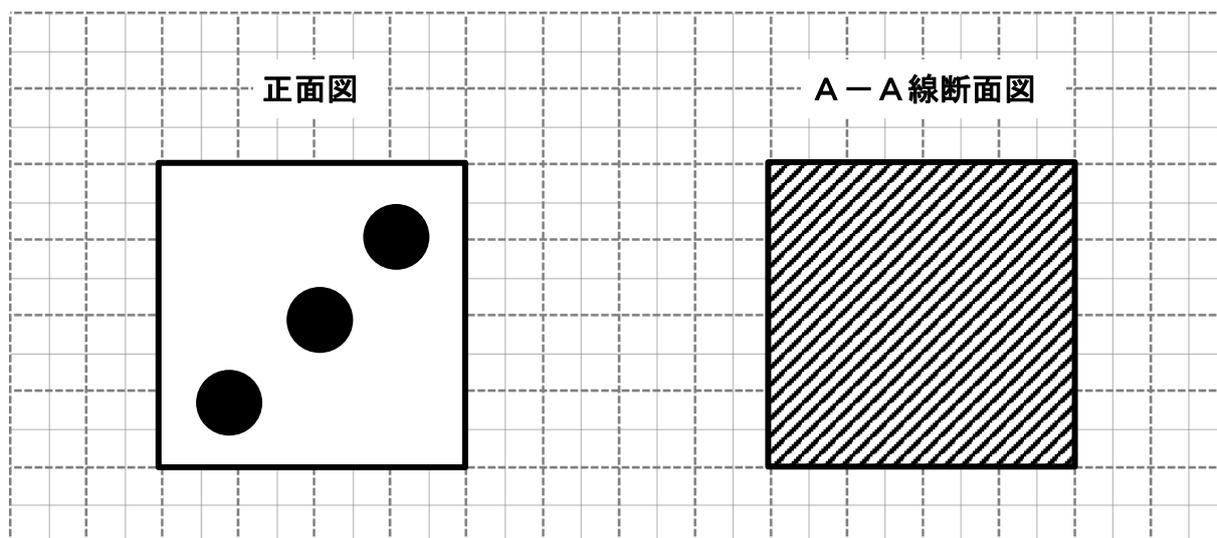
- ・左側面図及び右側面図に表された実線は，立体の稜線又は僅かな厚みを有する板状体の端面のいずれかを表すものとする。
- ・正面図，A－A線断面図及び斜視図は，左側面図及び右側面図と異なる縮尺で作図してもよい。
- ・斜視図を描画する際に用いる図法，向き及び作成数は，任意とする。
- ・斜視図の解答欄の余白に，文言による補足説明を記載してもよい。

[No. 6]

(例) サイコロ



「正面図」 「A-A線断面図」 (いずれの図であるかを図の上部に明記すること)



「斜視図」

